基本目標①　嬉野市に住みたい・行きたい”ひと”の流れをつくる

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
交流人口	2,258千人	H26	1,998千人	2,032千人	2,048千人	2,071千人	H29観光客動態調査
人口の社会増減	△99人	H26	△135人	△216人	△86人	△125人	佐賀県人口移動調査報告書

(1)観光客の誘致促進・国際交流活動の推進

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
観光客数	2,258千人	H26	1,998千人	2,032千人	2,048千人	2,071千人	H29観光客動態調査
外国人観光客数(宿泊)	112千人	H26	38.5千人	63.9千人	87.6千人	120千人	H29観光客動態調査
宿泊数(国内・国外)	679千人	H26	544千人	603千人	612千人	635千人	H29観光客動態調査

具体的な施策	平成29年度の進捗状況(平成30年3月末時点)			備　考
	これまでの取組(進捗、成果、課題等)	今後の取組予定	評価	
・「温泉」、「食」、「自然」などを活用した新たな観光資源や魅力の創出	継続した観光資源の情報発信や、各地区に出向いての観光PRを行うことにより、観光資源の魅力を広く伝えることができた。	今後も、県観光連盟や近隣市町、観光協会などの関係団体と連携を行い、既存観光資源の磨き上げや新たな魅力創出に取り組んでいく。	A H28 A H27 A	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・温泉街と周辺地域・関係団体等との連携による回遊性のある観光まちづくり推進	湯遊広場等のﾗｲﾄｱｯﾌﾟや、轟の滝公園の試行的なﾗｲﾄｱｯﾌﾟを行い、また、宵の美術館等の観光拠点を創出し、市内外の来客の夜の回遊性を高めることができた。	温泉街の橋へのﾗｲﾄｱｯﾌﾟを行い、夜間の見所を増設し、ますますの観光客の回遊性の向上及び訪問客の増加に取り組む。	A H28 A H27 A	
・源泉集中管理による温泉の保全	源泉集中管理ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞｼｽﾃﾑの導入に向け、源泉所有者会議での協議・検討(新所有者への事業説明等)を行い、ｼｽﾃﾑ設計を実施した。	ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞｼｽﾃﾑ導入に向け平成29年度にｼｽﾃﾑ設計を完了。平成30・31年度にｼｽﾃﾑ構築(設置工事)を実施する予定。	B H28 B H27 B	
・広域的な観光ルート形成等を視野においた広域連携による「日本版DMO」の創設推進	嬉野版DMOの組織構築に向けた取り組みを行った。併せて観光客動態調査、観光情報発信、商品開発などに取り組んだ。	嬉野版DMOの登録申請を行い、正式な組織としての体制を整える。また、嬉野市観光戦略の基本方針に基づき観光施策を展開していく。	A H28 B H27 B	
・域内のテーマパークや焼き物体験等とのタイアップによる観光プロモーション	九州忍者保存協会や日本遺産肥前窯業圏、九州オルレなどとの連携により、広域的な観光PR及び観光誘致が図られ、話題性のあるﾆｭｰｽを広く提供することができた。	今年度新たに開設されたﾁｬｵｼルや、既存の施設である志田焼の里博物館等の体験プログラムを、観光ツールとして積極的にPRしていく。	A H28 A H27 A	
・主にアジア圏をターゲットとした広域連携等による海外プロモーション	県観光連盟や観光協会と連携し、韓国・台湾をはじめ香港・上海・タイ等を中心に誘客ﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝを展開することができた。	団体旅行から個人旅行に旅行形態も変わっていく中、今後も広域連携や観光協会との連携を軸に、韓国・台湾をはじめ香港・上海・タイ等を中心に誘客ﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝを展開していく。	A H28 A H27 A	

具体的な施策	平成29年度の進捗状況（平成30年3月末時点）			備　考
	これまでの取組（進捗、成果、課題等）	今後の取組予定	評価	
・国際会議等のコンベンション誘致やスポーツ大会・合宿等誘致	ｵﾗﾝﾀﾞ空手合宿やVﾌﾟﾚﾐｱﾘｰｸﾞ久光製薬強化合宿、ﾎﾞｯﾁｬｷｬﾗﾊﾞﾝでのﾊﾟﾗｽﾎﾟｰﾂﾘｵﾘﾝﾋﾟｯｸ金ﾒﾀﾞﾘｽﾄの訪問等、文化・スポーツ振興課が中心となり誘致を行うことができた。	東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ・ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸが目前に迫る中、今後もｵﾘﾊﾟﾗ首長連合や県誘致推進協議会等と連携しながら関係他課と協働し、誘致や受入れを推進していく。	B H28 B H27 B	※評価欄について A：取組を実施した（実施済・実施中） B：取組を一部実施した C：方針、具体策等を検討中 D：未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・観光情報等一元化整備の推進	基本システムの構築を行い、情報一元化・情報発信を行う環境整備ができた。	DMOの組織を中心に、市内商店のﾎﾟｰﾀﾙｻｲﾄ加入を促進し、市内の統一した観光情報の発信等が可能となるような体制を整える。	A H28 B H27 B	
・観光関連多言語表記の推進	市内観光施設の案内看板等の多言語標記への改修を行い、ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ観光客の対応も可能とした。	今後も市内観光施設などの多言語標記対応を行い、ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ客がｽﾄﾚｽなく市内観光が可能となるような環境整備を行う。	A H28 A H27 A	
・観光関連Wｉ－Fi整備等通信環境整備の推進	平成27年度までで一定の市内Wi-Fiｴﾘｱ整備・拡充を完了。平成29年度は市においてWi-Fiｴﾘｱ整備・拡充事業の取り組みは行っていない。	今後も宿泊施設を含む観光施設等の事業所の独自設置も含め、効果的な通信環境整備を推進していく。	A H28 A H27 A	
・総合免税カウンターの開設	未実施。 （平成29年度は、電子決済システムの普及・促進のための補助制度を創設した。）	見直しを検討。 （電子決済システムの普及・促進に向けた取組みを行う。）	D H28 D H27 C	外国人観光客などの誘客や消費拡大を図るためには、「電子決済システムの普及・促進」が最優先である。

(2)移住支援及び定住支援

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
市が支援した移住者数【累計】	40人	H26	3人	5人（2人）	5人（0人）	5人（0人）	空き家ﾊﾞﾝｸ利用者実績（企画政策課）
定住奨励制度による定住者数【累計】	750人	H26	150人	286人（136人）	483人（197人）	690人（207人）	定住奨励金利用者実績（企画政策課）

具体的な施策	平成29年度の進捗状況（平成30年3月末時点）			備　考
	これまでの取組（進捗、成果、課題等）	今後の取組予定	評価	
・シティプロモーション動画等の制作	プロモーション動画や市民合唱による市歌CD等を活用しながら、自然・文化など嬉野市の魅力やふるさとの温もりなどを広く情報発信し、定住・移住促進及び交流人口等の増加を図った。	制作したプロモーション動画及び嬉野市歌CD等を活用し、さらなる市の魅力発信に努め、定住・移住促進を図っていく。	A H28 A H27 B	※評価欄について A：取組を実施した（実施済・実施中） B：取組を一部実施した C：方針、具体策等を検討中 D：未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・大都市圏での相談会開設	東京及び福岡での合同移住相談会に嬉野市ブースを出展。相談者に対し嬉野市へのアクセスや移住関連制度等を説明した。 ・東京（H29.6.11）での相談件数：10件 ・福岡（H29.9.30）での相談件数：10件	大都市圏での相談会等に参加・出展し、継続した移住・定住対策事業に取り組んでいく。	B H28 B H27 B	
・空き家バンクへの登録促進	市ホームページや全国版空き家バンクへの掲載により情報発信し、登録件数の増加を図った。 新規登録物件：6件 新規利用登録者：12名 平成29年度中の契約成立：1件	空き家状況調査により把握した空き家所有者に対する登録勧奨を行う。 地区より寄せられた空き家情報を基にした登録勧奨を行う。	A H28 A H27 B	
・空き家に対するリノベーション助成制度の創設	検討中であり、創設までに至っていない。	先進事例等を参考に効果的な制度を創設したい。	C H28 C H27 C	
移住支援制度の創設	検討中であり、創設までに至っていない。	先進事例等を参考に効果的な制度を創設したい。	C H28 C H27 C	
・空き家等を活用したお試し移住の推進	検討中であり、実施までに至っていない。	空き家調査と連携して費用対効果を含め検討したい。	C H28 C H27 C	
・生活排水処理施設の整備促進	これまでの集合処理・浄化槽（個人設置型）に加え、浄化槽（市町設置型）事業に着手したことで、市内全体での公共サービスが平準化された。	生活排水の水洗化等により、公共用水域の水質改善・生活環境を向上させ、住みたい・行きたいまちづくりを目指し、定住支援を充実させるため、公共下水道未整備地区の早期整備完了を目指していきたい。	A H28 A H27 A	

(3)文化の薫るまちづくりの推進

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
社会文化会館「リバティ」における文化イベントの集客数	2,000人	H26	1,000人	1,745人	3,164人	5,230人	各イベント入場者実績（文化・スポーツ振興課）

具体的な施策	平成29年度の進捗状況（平成30年3月末時点）			備　考
	これまでの取組（進捗、成果、課題等）	今後の取組予定	評価	
・県内外から多くの来場者を呼べる演奏会、舞台芸術、展覧会等のイベントの誘致及び開催	全国的に著名な歌手、ヴァイオリニストのコンサートの実施や落語公演を開催した。	継続した取り組みを行っていきたい。	A H28 A H27 A	※評価欄について A：取組を実施した（実施済・実施中） B：取組を一部実施した C：方針、具体策等を検討中 D：未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・若手芸術家の育成支援のための新たな活動拠点及び交流の場の整備による新たな市の魅力発信	昨年度よりアマチュアバンドの披露の場を設け、リバティを練習の場として提供することにより活動拠点・交流の場を提供。リバティの利用促進にも役立った。	これまでの経験を生かし、新たな育成支援事業を計画していきたい。	A H28 A H27 C	
・文化芸術の分野において国内外で活躍している佐賀ゆかり・嬉野ゆかりの人物に光をあてたイベントおよびワークショップ等の開催	嬉野にゆかりのあるアーティストのコンサートやダンスワークショップを実施した。	継続した取り組みを行っていきたい。	A H28 A H27 B	
・誰もが、いつでも嬉野で開催する文化芸術に関する情報が取集出来るように市内外および県外への情報発信	市内チラシの回覧、店舗へのポスター掲示、ラジオ放送、市HP及びフェイスブック等SNSを活用し、自主事業やリバティで開催するイベントの情報発信を行った。	定期的な情報発信を行い、閲覧者を増やしていきたい。	A H28 A H27 B	
・塩田津、志田焼の里博物館、長崎街道、キリシタン史跡、鍋野和紙など歴史的資源を活用した文化振興	塩田津三の蔵で音楽コンサート、三の蔵周辺でのイベントを実施した。	今後も市内歴史資産を活用した取り組みを行っていきたい。	A H28 C H27 C	

(4) 人と地域が元気になるスポーツの推進

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
スポーツ合宿参加者数	10,000人	H26	5,000人	5,867人	6,133人	3,700人	合宿誘致補助金実績 （文化・スポーツ振興課）
スポーツボランティア登録者数	500人	H26	0人	0人	0人	0人	（登録制度未整備）

具体的な施策	平成29年度の進捗状況（平成30年3月末時点）			備　考
	これまでの取組（進捗、成果、課題等）	今後の取組予定	評価	
・魅力あるスポーツイベントや東京オリンピック・パラリンピックに向けたスポーツキャンプなどの誘致のためのハード・ソフト両面での取り組み	昨年同様、佐賀県スポーツコミッションと連携し、オランダを中心とした海外スポーツキャンプ誘致に取り組んだ。 また、スポーツ合宿誘致推進協議会を組織し、事前合宿地としてオランダ女子空手の代表選手やボッチャ日本代表の強化合宿を迎えた。	パラリンピック競技の誘致に力を入れた取り組みも視野に入れ、ハード・ソフト両面においてオリンピアン・パラリンピアンのニーズを検証していきたい。	A H28 A H27 B	※評価欄について A：取組を実施した（実施済・実施中） B：取組を一部実施した C：方針、具体策等を検討中 D：未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・市内外で行われる集客力のあるスポーツイベントを活用した「スポーツ都市うれしの」「観光地嬉野温泉」の魅力発信及びスポーツイベントと宿泊施設との連携による誘客促進	サガン鳥栖嬉野DAYでの冠スポンサーにより、スタジアム隣接の公園において嬉野ブースを設けPRを行う。また、試合前及び前半終了後、PRビデオの放映や嬉野高校チアリーディングの披露により嬉野市のPRを行った。	今後、集客力のあるスポーツイベントにより嬉野市のPRに加え、スポーツの素晴らしさを周知していきたい。	A H28 A H27 B	
・市民全員でスポーツを支えるスポーツボランティア制度の創設	体育協会等を通じ、ボランティアスタッフを募集したところであるが、思ったような応募がなかった。	プロスポーツのボランティア団体との連携など新たな取組みを検討し、市内でのボランティアによるスポーツ参加の風潮を定着させたい。	C H28 C H27 B	
・嬉野らしさのある特典を活かしたスポーツポイント制度の導入	ポイント制度の導入については制度設計段階である。	ポイント制を導入した先進事例を研究し、健康寿命延伸のための健康ポイントとしての実施も視野に入れ、持続性のある制度設計を検討したい。	C H28 C H27 C	
・温泉観光地である強みを生かした力強いスポーツツーリズムの推進を目指す官民が連携したスポーツコミッション組織の設立・育成	スポーツ合宿誘致推進協議会を組織し、官民連携した活動を行った。事業費（予算）についても民間資本も一部導入した。	スポーツ合宿誘致推進協議会を中心とし、今後、嬉野市の特色を生かしたスポ―ツツーリズムを佐賀県との連携・協働も含めて推進していきたい。	A H28 B H27 B	

(5)ひとにやさしいまちづくりの推進

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
外国人や障がい者にも対応できるユニバーサルデザイン(UD)ガイド登録者数【累計】	20人	H26	0人	0人 (0人)	9人 (9人)	12人 (3人)	実績 (市民協働推進課)
宿泊施設を利用する障がい者、高齢者、外国人向け避難訓練の実施【累計】	100回	H26	0回	0回 (0回)	2回 (2回)	2回 (0回)	実績 (市民協働推進課)
パラリンピックの正式種目「ボッチャ」競技人口【累計】	1,400人	H26	0人	90人 (90人)	192人 (102人)	322人 (130人)	嬉野レクボッチャ大会参加者実績(市民協働推進課)

具体的な施策	平成29年度の進捗状況(平成30年3月末時点)			備　考
	これまでの取組(進捗、成果、課題等)	今後の取組予定	評価	
・すべてのひとがまち歩きを楽しむことができるようハード・ソフト両面にわたる取り組みの充実	てくてくラジオの活用促進として設置ステッカー配付やイベント時にコーナを設けるなどした。 イベント時の車いす貸し出しや外国語対応ガイドの配置などを行った。	てくてくラジオの録音内容の見直しなど定期的なメンテナンスの実施とPR活動。 BFTCのガイドと他団体に所属するガイドとの連携を深め、ソフト面の充実を図る。	A H28 A H27 A	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・バリアフリーな避難体制を確立するための施策の推進	全旅館へ避難誘導ボードを配布した。また、点図避難図を3旅館作成した。	今年度も新たに3旅館程度の点図を避難図作成を実施する。	A H28 A H27 B	
・市民や企業、団体など市全体で、すべての観光客を受け入れて満足していただくためのユニバーサルデザイン(UD)に対する意識の向上及び普及啓発の促進	視覚障がい者、ほじょ犬ウエルカム講習会の開催をした。	各種UD講習会を開催する。	A H28 A H27 A	
・すべてのひとがハンディなく、一緒に楽しめるユニバーサルスポーツの普及の促進	第3回嬉野レクボッチャ大会を開催し、31チーム130名の参加があった。	嬉野レクボッチャ大会を健常者、障がい者に関わらず一緒に行い、取り組みを継続していく。	A H28 A H27 A	
・ユニバーサルデザイン(UD)やバリア情報などの情報発信の充実	バリアフリー基準に基づいたUD情報を障害を持つ旅行者に提供した。(273件)	今後も情報提供の継続及びデータベースの充実を図る。	A H28 A H27 A	
・建築物、公共交通、道路、公園など、まちづくり全体の面的なユニバーサルデザイン(UD)化の促進及びバリア状況調査の更なる充実	嬉野市地域コミュニティセンター新築工事及び佐賀県公共施設UD工事へのアドバイスを行った。	公共施設を含めた建築物に対するUD化へのアドバイスを今後も継続して行う。	A H28 A H27 A	
・ユニバーサルデザイン(UD)の「聖地」を目指し、連携協定校である佐賀女子短期大学をはじめとする県内大学との連携強化	佐賀大学留学生のてくてくラジオモニターや西九州大学生等のボッチャ大会協力など連携の強化を図った。	各種事業への連携を強化していく。	A H28 A H27 A	

(6)新幹線を生かしたまちづくりの推進

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
新幹線嬉野温泉駅前整備率	40%	H26	0%	0%	26.1%	36.3%	土地区画整理事業における面整備率

具体的な施策	平成29年度の進捗状況(平成30年3月末時点)			備　考
	これまでの取組(進捗、成果、課題等)	今後の取組予定	評価	
・土地区画整理事業を用いた整備の促進	道路築造を行った。	引き続き事業の推進に努める。	B H28 B H27 B	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・「嬉野温泉駅周辺まちづくり委員会」の提言を受け、駅周辺施設整備の促進	駅周辺まちづくりシンポジウムの開催	「嬉野温泉駅周辺まちづくり委員会」の提言を実現させるための事業推進	B H28 B H27 B	
・新幹線嬉野温泉(仮称)駅開業に向け広域的誘客促進の取組の実施	佐賀県及び5市ネットワークによる取組	佐賀県及び5市ネットワークによる取組	C H28 C H27 C	
・都市再生整備計画事業等を用いた魅力ある駅前の創出	駅周辺まちづくりシンポジウムの開催	「嬉野温泉駅周辺まちづくり委員会」の提言を実現させるための事業推進	B H28 B H27 B	
・新幹線嬉野温泉(仮称)駅開業や嬉野医療センターの駅周辺への移転を見据え、適宜公共交通路線見直しを行うとともに、広域基幹バス路線の充実	地域公共交通活性化協議会及び地域公共交通会議において協議を行った。	嬉野医療センター、バス事業者、タクシー事業者及び市で協議を行い、嬉野医療センター移転に伴い路線再編予定である。	B H28 B H27 A	

(7)ふるさと教育の推進

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
市内在住高校生への卒業後に関する質問で「嬉野市に住む」又は「嬉野市から出ていくが将来は嬉野市に戻ってきたい」と回答する生徒の割合	40%	H27	30%	30%	—	—	(H29アンケート未実施)

具体的な施策	平成29年度の進捗状況(平成30年3月末時点)			備　考
	これまでの取組(進捗、成果、課題等)	今後の取組予定	評価	
・「嬉野学」(郷土学習)による心の教育の推進。「嬉野学指導資料集」の活用による郷土　を愛する心の育成等のための取組の充実	市内各学校の「総合的な学習の時間」担当者を招集し「豊かな心の教育推進部会」を設置。「豊かな心の教育推進部会」で各学校での「嬉野学」の学習に使用した資料やデータを全学校で共有。	今後も「嬉野学」の実践を通して、児童生徒の郷土を愛する心を育んでいく。 それぞれの実践を検証し、より充実した取組となるよう「豊かな心の教育推進部会」が中心となって実践と研究を進めていく。	A H28　A H27　A	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・ 学校、家庭、地域のサポートによる地域活動への積極的な参加	コミュニティ・スクールの取組や地域コミュニティとの連携により、各学校の状況に応じた様々な地域での体験活動を学校教育活動の中に取り入れている。	「地域とともにある学校づくり研究部会」が中心になって、市内全体のコミュニティ・スクール取組の更なる充実を図る。 地域コミュニティをはじめとする地域の様々な人や組織との結びつきをより強め、地域とともにある学校を創っていく。	A H28　A H27　A	
・嬉野市史の編纂	準備委員会を開催(4回)し、市史編纂の概要及び市史編纂委員会の立ち上げの調整を行った。	市史編集委員会を開催し、市史編纂基本計画を策定する。	B H28　— H27　—	H29年度から新規

基本目標②　嬉野市で働きたい”しごと”をつくる							
重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
新規雇用者数【累計】	180人	H26	0人	0人 (0人)	11人 (11人)	28人 (17人)	実績 (企画政策課)

(1)企業誘致ビル整備による新たな雇用の創出							
重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
企業誘致ビル整備による新たな雇用の創出【累計】	150人	H26	0人	2人 (2人)	5人 (3人)	12人 (7人)	実績 (企画政策課)

具体的な施策	平成29年度の進捗状況(平成30年3月末時点)			備　考
	これまでの取組(進捗、成果、課題等)	今後の取組予定	評価	
・企業誘致ビルの整備	企業誘致ビルの整備を前提に進出協定を締結した企業が仮事務所において、平成28年6月から操業開始。(新規地元雇用あり)	平成31年度中に建設を完了し、新たな雇用の増加を図る。	A H28 A H27 B	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・佐賀県など関係機関と連携しての誘致活動	佐賀県との連携により、進出協定を締結した企業が仮事務所において、平成28年6月から操業開始。(新規地元雇用あり)	誘致活動を充実し、企業の誘致を図る。	A H28 A H27 A	
・企業誘致支援制度の拡充	製造業に加え、事務系企業への支援制度を追加し拡充を図った。	拡充した支援制度により、企業の誘致を図る。	A H28 A H27 A	

(2)地場を支える市内企業への支援充実及び地元大学との連携

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
市内企業支援拡充及びマッチング支援による新規雇用者数【累計】	15人	－	－	0人 (0人)	5人 (5人)	5人 (0人)	実績 (うれしの温泉観光課)

具体的な施策	平成29年度の進捗状況(平成30年3月末時点)			備　考
	これまでの取組(進捗、成果、課題等)	今後の取組予定	評価	
・市内企業に対する支援制度の拡充	企業等誘致条例の奨励措置適用条件に該当する企業の事業所増設分に係る固定資産税免除を継続している。	生産性向上特別措置法による固定資産税の特例制度の導入及び導入促進基本計画の策定を行う。	A H28 B H27 A	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・大都市圏でのUJIターン希望者への相談会開設	移住支援事業と合わせて実施した。	佐賀県が取り組んでいるUJIターン希望者登録制度を活用し、充実を図る。	B H28 B H27 B	
・事業所への若者や女性、障がい者の雇用促進・啓発	企業(事業所)へ地元雇用拡大、促進を依頼した。	さらなる雇用拡大を企業に働きかける。	B H28 B H27 C	
・大学と地域の関わりを強化することによる地元志向の意識醸成	「地(知)の拠点大学における地方創生推進事業(COC、COC＋事業)」において、佐賀大学と連携し、4つの地域密着型プロジェクトを実施した。	「地(知)の拠点大学における地方創生推進事業(COC、COC＋事業)」を今後も推進していく。	A H28 A H27 C	
・インターンシップ受け入れ体制の強化	平成29年度は県主導の「ふるさとワーキングホリデー事業」が実施されなかった。 (毎年、市内旅館への地元大学以外からのインターンシップ受入れあり)	県事業及び「地(知)の拠点大学における地方創生推進事業(COC、COC＋事業)」等を活用し、インターンシップ受入れを推進していく。	B H28 B H27 C	
・サテライト教室及び大学との共同研究の実施	佐賀女子短期大学オープンカレッジ(サテライト講座)を実施した。	H30年度もサテライト講座を実施するなど大学との連携を継続・強化していく。	A H28 A H27 C	

(3)次世代を支える起業支援の推進

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
市が支援した起業件数【累計】	15件	－	－	1件（1件）	3件（2件）	5件（2件）	空き店舗活用事業実績（うれしの温泉観光課）

具体的な施策	平成29年度の進捗状況（平成30年3月末時点）			備　考
	これまでの取組（進捗、成果、課題等）	今後の取組予定	評価	
・金融機関と連携した起業者への支援制度の創設	商工会で経営全般について、金融機関で資金調達や融資制度等の助言指導を行い、起業者への支援を行っている。	創業支援事業計画に基づき、市、商工会、金融機関等一体となって連携し、創業者へ創業計画・資金調達等での支援を行う。	A H28 A H27 A	※評価欄について A：取組を実施した（実施済・実施中） B：取組を一部実施した C：方針、具体策等を検討中 D：未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・大都市圏での相談会開設	移住支援事業と併せて実施した。	継続して大都市圏での相談会等の事業に取り組むことで、市内での起業につなげたい。	B H28 B H27 B	
・創業支援ワンストップ窓口の創設	創業支援事業計画の認定を受け、創業支援ワンストップ窓口を設置した。また、関係機関での情報共有を行った。	創業支援事業計画に基づき、関係機関内での情報共有を密に行いながら、創業支援事業の充実を図っていく。	B H28 B H27 B	

(4)魅力ある地域商工業の創造

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
観光消費額	16,462百万円	H26	13,881百万円	14,797百万円	15,012百万円	15,382百万円	H29観光動態調査
商店街の空き店舗率	14.2%	H26	19.7%	19.6%	18.3%	17.7%	商工会商店街等実態調査

具体的な施策	平成29年度の進捗状況(平成30年3月末時点)			備　考
	これまでの取組(進捗、成果、課題等)	今後の取組予定	評価	
・商店街等活性化・交流拠点づくり(魅力ある商業空間づくりやネットワーク構築)	オープンシャッター企画の実施や商店街マルシェ等の支援を行い、魅力ある嬉野温泉商店街の増進に繋がった。	引続き、オープンシャッター企画の実施や商店街マルシェ等を行い、各店舗の売り上げ向上、魅力アップを狙う。	A H28 B H27 A	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・地域における「地域商業担い手」育成支援	商工会等が行う創業、経営、金融、税務等の個別相談や指導、セミナー等の開催支援を行った。	創業支援事業計画に基づき、市内で新たに創業される方についての相談から創業までの支援を商工会とともに行う。	B H28 B H27 A	
・空き店舗活用による新規開業及びチャレンジショップ開設等の商業者支援	国、県の空き店舗改修に対する補助金を活用し、商店街で開業される方への支援を行った。 しかしながら、閉店する店もあり空き店舗率は思ったほど減少していない。	今後も、嬉野・塩田商店街において、商工会や商店街と連携し、空き店舗活用による商業者への開業支援を行う。	A H28 A H27 A	
・新商品・新サービスの事業化及びその開発や販路拡大支援	販路拡大・物産振興事業や地場産品ものづくり支援事業により、市内中小企業事業者が行う新商品開発、販路開拓の支援を行った。	引き続き、市内事業者の新商品開発や販路開拓等の事業をサポートし、嬉野市の産業の底上げを図る。	A H28 A H27 A	
・ECサイト「嬉野商店(仮称)」開設によるEC(ネット通販)やICTを活用した販売促進の支援	ECサイト構築は行われたが、運営方法、商品等の選定が確立されていないので、開設までには至っていない。	引き続き、ECサイト開設に向け支援を行い、地場産品のみならず商店や商品の魅力をPRしていく。	B H28 B H27 A	
・肥前吉田焼の商品開発や販路開拓の支援	平成28年度よりふるさと財団の助成事業を活用し、デザインコンペにる商品開発や国内主要都市などで、展示会・販売会等を開催し、吉田焼の活性化に繋げることができた。	平成30年度は、新規顧客を得るための体験スペースの見せ方などを含めた窯元会館のリノベーションや販路開拓のための展示会への出店に対する支援を行う。	A H28 A H27 A	

(5)うれしの茶の販路・需要開拓

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
海外販路開拓に向けた商談成立件数【累計】	6件	－	－	0件 (0件)	1件 (1件)	7件 (6件)	輸出検討委員会報告 (ジェトロ佐賀)
西九州茶連における嬉野市生産者の販売高	1,148,425千円	H26	823,667千円	831,011千円	844,670千円	858,483千円	西九州茶連取扱実績
新たな接点の売り場への「うれしの茶」出荷量	5.6トン	－	－	0.0144t	0.06t	0.07t	JAさが茶販売事業所実績

具体的な施策	平成29年度の進捗状況(平成30年3月末時点)			備　考
	これまでの取組(進捗、成果、課題等)	今後の取組予定	評価	
・ジェトロ佐賀等関係機関と連携した海外販路開拓	残留農薬解決実証圃の拡大と防除暦の作成を実施。また、ブランドプロデューサーを招き、うれしの茶の特徴・差別化を検証し、シンガポールでのテストマーケティングを実施。	うれしの茶の特徴を十分理解し活かしながら、シンガポールでテストマーケティングを実施する。 また、輸出可能茶の確保に努めるため、引き続き、展示会支援等を行っていく。	A H28 A H27 A	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・さが茶業所得向上対策事業やうれしの茶優良品種導入事業による高品質茶生産拡大の推進	被覆向上を図るための資材導入支援や茶園の若返りを図るための茶苗優良品種導入支援を実施。	高品質茶生産に向けて、被覆資材、優良品種の導入に取り組む。	A H28 A H27 A	
・「うれしの茶」の新付加価値化による需要開拓	生産者等と連携して、インバウンドや東京、全国でのライフショップでの販売、2020年対策となる箱入りギフト製作を実施。	これらの商品、カタログを展示会、商談会等へ提示し需要開拓を図る。	B H28 A H27 B	
・「うれしの茶交流館」建設による更なるうれしの茶のブランド力向上	ブランド向上を図るための「うれしの茶交流館」がH30.4.1にオープンした。	観光資源間の連携を図り、観光・交流の活性化を市内外の方とともに行い、ブランド化に努める	A H28 A H27 A	
・企業との連携等によるコラボ商品の開発	うれしの茶を活用した「ナチュラル　フレーバー　グリーンティー」を市内限定で発売。	企業、関係機関等と連携して茶葉を活用した商品開発に取り組む。	A H28 A H27 A	

(6)活力ある担い手の育成と農業後継者の確保

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
任意営農組合の法人化数【累計】	10組合	H26	1組合	6組合 (5組合)	7組合 (1組合)	8組合 (1組合)	嬉野市営農組合連絡協議会名簿
営農組合の未組織地区での組織設置数【累計】	2組織	H26	0組織	1組織 (1組織)	1組織 (1組織)	1組織 (1組織)	嬉野市営農組合連絡協議会名簿
青年就農者の確保【累計】	32人	H26	17人	15人 (−2人)	12人 (−3人)	18人 (6人)	青年就農給付金受給者名簿

具体的な施策	平成29年度の進捗状況(平成30年3月末時点)			備　考
	これまでの取組(進捗、成果、課題等)	今後の取組予定	評価	
・地域の農地・農業を守る“地域農業の担い手”として営農組合の法人化及び認定農業者支援活動の推進	H27年度に営農組織から法人化された5組織に加え、H28年度末に1組織が設置された。またH29年度には新たに1組織が営農組織から法人化された。 (H29年度末) ・営農組合:10組織 ・農事組合法人:8組織	現在法人化されている組織への支援とともに中山間地域の実情の把握に努め、中山間地域においての営農組織からの法人化または営農組織の組織化に向けて県、市、JAと協同で支援していく。	A H28 A H27 A	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・青年就農給付金等を活用した農業後継者の確保	H29年度末の給付金受給者総数は、終了者:7名、中止者:6名、休止者:1名、現受給者:4名の計18名となっている。	H29年度より研修開始されたトレーニングファーム研修生が、H31:2名、H32:5名が市内に就農予定であるため、給付対象者の候補となっている。 この他にも、これまでと同様、農業委員またはJAとの連携による候補者の掘り起こしや広報を実施していく。	B H28 B H27 B	

(7)“うれしのブランド”づくりと“稼ぐ”農業への取組

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
“うれしのブランド”野菜の作目数【累計】	3種類	H26	0種類	3種類 (3種類)	3種類 (0種類)	3種類 (0種類)	JA、普及センターとの連絡調整会議
酒造用米の作付面積【累計】	150ha	H26	117ha	139ha (22ha)	115ha (−24ha)	102ha (−13ha)	水田台帳
6次産業化に取り組む農業者数【累計】	10人	H26	5人	6人 (1人)	6人 (0人)	6人 (0人)	関係機関との連絡調整 (農林課)

具体的な施策	平成29年度の進捗状況(平成30年3月末時点)			備　考
	これまでの取組(進捗、成果、課題等)	今後の取組予定	評価	
・農業団体と連携し、女性及び高齢者による農作業でも作付けでき、且つ、収益性の高い作目の選定及び推奨	JAによる農家を対象とした説明会や民間業者との取組が実施された。	県の普及センター及びJAとの連携をしながら推進を図る。	B H28 B H27 B	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・実需者からの需要が高く、主食用米より高収益の酒造用米の作付面積の増加	酒造好適米の「さがの華」「レイホウ」の出荷量が実需者の要望する量に達することができた。	今後は面積を確保したうえで、酒米の品質向上と安定供給を図るための支援を推進していく。	A H28 A H27 A	
・酒造用米作付けに際して、農業者等が取り組みやすい環境づくり及び支援	酒造好適米としては高品質な「山田錦」を生産する団体の組織化をJAとの連携により支援してきた。	より良い品質の「山田錦」を生産するために、生産する団体の充実を図り、一社法人の設立を支援していく。	A H28 A H27 A	
・6次産業化推進のための各種研修会やセミナーの案内	H29年度において具体的な動きはなかった。	国及び県と連携しながら、農業者等からの相談に対応し、6次産業化への取組を推進していく。	D H28 D H27 D	
・国、県並びに関係団体と連携して助成制度活用等の農業者への情報提供	H29年度において具体的な動きはなかった。	国及び県と連携しながら、先進的な事例等の情報を収集し推進していく。	D H28 D H27 D	
・旅館等の宿泊施設と連携した都市農村交流事業の取組推進	H29年度において具体的な動きはなかった。	都市農村交流の優良事例等の情報収集と関連団体との連携を図り推進していく。	D H28 D H27 D	

基本目標③　嬉野市で結婚・出産・子育てしたい”まち”をつくる

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
出生数【累計】	1,100人	H26	178人	365人 (187人)	559人 (194人)	746人 (187人)	住民基本台帳人口
合計特殊出生率	1.75			(1.43)	1.57	1.57	期間合計特殊出生率

(1)結婚支援の充実

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
出会いの場における カップル成立数【累計】	80組	H26	12組	22組 (10組)	37組 (15組)	57組 (20組)	実績 (市民協働推進課)
結婚支援事業登録者数	150人	H26	78人	60人 (−18人)	83人 (23人)	93人 (10人)	結婚支援事業実績 (市民協働推進課)
結婚を応援する事業所 登録数	30事業所	H26	0事業所	0事業所 (0事業所)	2事業所 (2事業所)	4事業所 (2事業所)	実績 (市民協働推進課)

具体的な施策	平成29年度の進捗状況(平成30年3月末時点)			備　考
	これまでの取組(進捗、成果、課題等)	今後の取組予定	評価	
・独身者の魅力向上を図りつつ、男女の出会いの場の創出	独身男女を対象としたコミュニケーション能力アップ講座を定期的に実施し、出会いの場としてのデイナーパーティ(2回)やバスツアー(1回)を開催した。また、相談員によるお見合いの実施、佐賀県主催のさが出会いサポートセンターを嬉野市で開催した。	独身男女の結婚を支援するため、結婚支援相談員やサポータ、近隣市町の支援者を含め支援者セミナーを実施し、スキルアップと連携強化を図る。男女の出会いの場の提供、お見合い・セミナー等を実施する。	A H28 A H27 A	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・結婚支援事業の情報発信を強化し、独身者の結婚に対する機運の醸成	婚活セミナーや出会いのイベントの開催について、登録者や応援事業所のチラシ配布、市内班回覧、市HPの掲載により周知を図った。	これまでの取り組みを継続しつつ、県ホームページにも掲載する。	A H28 A H27 A	
・結婚支援相談員の配置	結婚支援相談員を配置し、結婚支援希望者の登録手続きや登録者同士のお見合いを実施した。	これまでの取り組みを継続する。	A H28 A H27 A	
・男性向けコミュニケーション能力アップ講座の開催	結婚を希望する独身男女を対象にした心理学セミナーやワークショップを計8回開催し、累計65人が参加した。男性向け講座はその内2回累計17人の参加だった。	コミュニケーション能力アップのための講座を定期的に行う。	A H28 A H27 A	
・市内のまちづくり団体等が実施する様々な婚活イベントへの積極的な支援	婚活イベント会社が当市で実施するイベント等について、開催周知を登録者へ行った。	まちづくり団体等が実施する婚活イベントについて、開催周知等の協力依頼があった場合は、登録者への周知等を行う。	A H28 A H27 B	
・雇用している独身者の結婚活動を積極的に応援する事業所の登録制度を新設し、事業所、地域との連携による結婚支援	市の各事業所を訪問し、結婚支援を応援する事業所についての制度の説明を行い、登録の推進を図った。(新規:2事業所)	市内各事業所を訪問して、制度の説明を行い、登録の推進を図る。	A H28 A H27 C	

(2)妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
不妊治療費助成件数	30件	H26	27件	24件	24件	24件	補助助成実績（健康づくり課）
不育症治療費助成件数	3件	H26	0件	0件	0件	0件	補助助成実績（健康づくり課）
訪問指導・健康相談（妊産婦、乳幼児、学童）	4,900人	H26	4,605人	4,590人	2,696人	3,155人	地域保健事業報告（母子保健報告）

具体的な施策	平成29年度の進捗状況（平成30年3月末時点）			備　考
	これまでの取組（進捗、成果、課題等）	今後の取組予定	評価	
・不妊治療（体外受精・顕微授精）、不育症治療費助成制度の実施	不妊治療を受けている夫婦の経済的及び精神的負担を軽減するために、県の助成金に加え市も補助を行った。そのことで妊娠につながったケースもあるが、晩婚化が阻害要因になっている。	新規申請者や継続申請者のどちらもおり、、助成を望まれている夫婦が多いため、今後も引き続き行う。	A H28 A H27 A	※評価欄について A：取組を実施した（実施済・実施中） B：取組を一部実施した C：方針、具体策等を検討中 D：未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・南部地区小児時間外診療事業による毎日の夜間小児救急医療の提供	小児の第1次救急医療体制の確保及び住民に対する救急医療の普及啓発を図るため、杵藤地区構成市町共同実施しており、夜間・休日に小児診療を行っている。 嬉野市の平成29年度実績は129人の利用があった。	子どもの急な発病等にいち早く対応でき、安心して日常生活を営むことがでるよう負担金を拠出して引き続き取り組んでいく。	A H28 A H27 A	
・かかりつけ医の定着を図るとともに、高次医療機関である嬉野医療センターと連携した医療支援体制の整備促進	かかりつけ医の定着は図られつつある半面、小児科医不足の問題もある。	医師会とも協議をした上で、嬉野医療センターと連携し、医療支援体制の確立をしていく。	C H28 C H27 C	
・妊娠出産期から、乳幼児・学童期の子育てに至るまでの相談支援の充実	相談支援等を実施はしているものの、人員や体制の問題もあり十分とは言えない。	子育て支援課や教育委員会等と連携し、また、「子育て世代包括支援センター」・「こどもセンター」の活用をしながら充実を図りたい。	B H28 B H27 B	

(3)安心して子どもを育てられる環境の確保

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
延長保育事業	76人	H25	46人	44人	46人	48人	利用者実績 （子育て支援課調べ）
病児・病後児保育事業	151人	H25	9人	44人	61人	64人	利用者実績（他市町利用者含） （子育て支援課調べ）
ファミリー・サポート・センター事業~~（就学児のみ）~~	200人	H25	177人	87人	80人	171人	利用者実績 （子育て支援課調べ）
「男は仕事、女は家庭」という考えに反対する市民の割合	70.0以上	H23	53.7	－	61.1%	61.1%	男女共同参画に関する市民意識調査

具体的な施策	平成29年度の進捗状況（平成30年3月末時点）			備　考
	これまでの取組（進捗、成果、課題等）	今後の取組予定	評価	
・「こどもセンター」整備による出産から子育て、教育に至るまでの様々な相談への対応	「こどもセンター整備検討委員会」を立ち上げ、委員会において「こどもセンター」の場所や内容について検討した。	平成31年度の開設に向けて、開設場所の改修や内容を継続して検討していく。	A H28 B H27 C	※評価欄について A：取組を実施した（実施済・実施中） B：取組を一部実施した C：方針、具体策等を検討中 D：未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・ 病児・病後児保育、延長保育、一時預かり等、保護者の要望に沿える保育サービスの充実や乳幼児や障がい児の保育の場の確保	障がい児保育の需要が前年度に比べ大幅に増加したが、認可保育所において保育士を加配し障がい児を受け入れた。また、他の事業についても、保護者のニーズに沿った保育サービスを提供できた。	病児保育を実施する武雄市と協定を締結し、保護者の利便性の向上を図る。また、待機児童解消のための取組みとして、学童クラブ室専用棟を整備する。	A H28 A H27 A	
・ 地域子育て支援センターの充実、相談や交流、情報提供による育児不安や孤立化の緩和	「嬉野市子育て支援センター」を子育て支援の拠点と位置付けし、塩田地区での行事も増やし、多くの子育て中の保護者に対して育児不安や孤立化の緩和を図った。また、子育てママ同士の交流や情報交換も活発に行うことができた。	利用促進を図るため、10ヵ月児訪問や赤ちゃん相談等を継続し、地域子育て支援拠点事業の周知に努める。また、利便性の向上を図るため、土曜日又は日曜日も開設する。	A H28 A H27 A	
・ ファミリー・サポート・センターの充実を図るため、養成講座や研修による会員増、サービス利用の促進	家庭保育が困難な児童の一時的な預かり、保育所・学童の開所時間を超えた保育に対応できた。また、各種講習会によりサポーターの質の向上が図れた。今年度から利用料金の一部助成を開始したことにより利用者が増加した。	サポーターの資質向上研修、会員登録の促進及び利用料金の助成を継続する。H30年度は更なる利用促進及び制度周知を図るため、出生届けの際に無料利用券を交付する。	A H28 A H27 A	
・ ひとり親家庭の自立に向けた意欲を高め、安心して子育てと就業を両立できるための支援	児童扶養手当、ひとり親家庭医療費助成及びひとり親子育て世帯応援給付金事業により生活の安定に寄与できた。また、母子父子自立支援員等の就業支援相談により、自立支援事業の利用に繋がった。	就業支援では資格取得を目指す高等職業訓練促進給付金事業の資格の範囲が広がったことを受け、より密に母子父子自立支援員と連携し、ひとり親の自立のために利用を促し、制度の周知を図っていく。	A H28 A H27 A	

具体的な施策	平成29年度の進捗状況（平成30年3月末時点）			備　考
	これまでの取組（進捗、成果、課題等）	今後の取組予定	評価	
・児童虐待の予防と早期発見、早期対応に努めるため、支援体制の強化	家庭相談員を中心に、学校、保育園、児童相談所、警察等の関係機関との連携を図っている。ケースに合わせた会議の開催により、関係機関との情報共有が充実してきている。	関係機関と連携を取りながら、必要に応じて個別ケース会議等を行い、継続した支援を行う。アセスメント・プランニングシートを取り入れていく。	A H28　A H27　A	※評価欄について A：取組を実施した（実施済・実施中） B：取組を一部実施した C：方針、具体策等を検討中 D：未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・幼児教育・保育の充実を図るため、カウンセラー（チャイルドカウンセラー）の配置による相談体制の強化	今年度から予算を確保し、早期支援コーディネーターを配置した。発達段階の早期から支援体制を整備し、就学移行期に情報共有の引継ぎがスムーズに行えた。	今後も引き続き早期支援コーディネーターを配置し、教育部局との連携を図りながら支援体制の充実を目指す。	A H28　B H27　D	
・ワークライフバランスの推進のため県等と連携した啓発セミナー等の実施並びに男女共同参画意識の向上のための情報発信等の強化	県主催の男de子育てﾁｬﾚﾝｼﾞﾌｫﾄｺﾝﾃｽﾄ入賞作品展示を庁舎内で6日間実施し、育児・家事に取り組む男性の啓発活動を行った。 市内の男女共同参画推進団体と協力し講演会や映写会を実施した。 男性の育児・家事・地域活動等への参画を促すためのﾘｰﾌﾚｯﾄ配付。	市内の男女共同参画推進団体と連携し、これまでの講演会・映写会を今後も実施し、男女共同参画社会の推進を図る。 市報、市ホームページ、行政放送や広報媒体を通じて、地域での啓発活動やイベントの情報等を発信する。	A H28　A H27　A	
・女性が社会進出するために必要な女性起業支援セミナーの開催による女性の起業・再就職の促進	国・県からの情報を市ホームページに掲載したり、地域コミュニティへチラシを配布した。 うれしの温泉観光課を通じてチラシを配布し事業所への啓発した。	今年度も国・県からの情報を提供していく。	A H28　A H27　B	

(4)特色ある教育の推進と確かな学力の育成

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
全国学力学習状況調査	全教科、市の平均を全国平均以上	H26	小6は全教科、全国平均以上	小6は国語A、算数Aで全国平均を上回った	小6は国AB、算ABの4区分のうち3区分で全国平均を上回った	小6は国AB、算ABの4区分のうち1区分で全国平均を上回った。	国が示した調査結果
全国学力学習状況調査	全教科、市の平均を全国平均以上	H26	中3は全教科全国平均以下	中3は全教科全国平均以下	中3は全教科全国平均以下	中3は全教科全国平均以下	国が示した調査結果
電子黒板【累計】	100%	H26	73%	100%	100%	普通教室:100% 特別教室:配置なし	実績 (学校教育課)
特別支援教育支援員の配置	必要とする全ての学校へ配置	H26	13人	13人	13人	13人	実績 (学校教育課)

具体的な施策	平成29年度の進捗状況(平成30年3月末時点)			備　考
	これまでの取組(進捗、成果、課題等)	今後の取組予定	評価	
・小学校6年生から中学校3年生までの4年間で使用する『嬉野市副読本「生きる力」の教科書』(改訂版)の活用による自己解決力、自己防衛力等の育成及び生きる力の伸長	平成27年度に改訂版を作成し、小学生から指導を行っている。小学校6年生での授業研究会にも取り組んだ。	生きる力の教科書を活用した学習「生き生きタイム」で使用する資料やワークシートを全学校に共有する。特にラインなどのSNSの利用について、正しい知識を身に付けさせる。	A H28 A H27 A	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・小学校における「嬉野市子ども学校塾」による学習習慣の定着と、中学校における「放課後等補充学習支援事業」による基礎学力の向上	「嬉野市子ども学校塾」及び「放課後等補充学習支援事業」取り組んでいる。小学生約4割、中学生は主に3年生が参加し、基礎学力の定着や受験対策を図っている。	学習習慣及び学力の向上に向けて継続して取り組んでいく。	A H28 A H27 A	
・小学校3年生に国語辞典を支給し、活用させることによる語彙力等の育成	市内小学校3年生に国語辞典及び付箋紙を支給している。(入学式の際に贈呈式を行っている)	今後も辞書引き学習を進め、児童の辞書の活用能力を高め、学力向上につなげていく。	A H28 A H27 A	
・吉田小・中学校を指定校とし、よりよい小中一貫教育の在り方に関する研究の推進	吉田小中学校を小中連携教育の研究指定校として市教育委員会が指定し、9年間を見通した教育の在り方の研究を行い、その成果を市内全教職員に発表した。	吉田小中学校の研究指定事業は終了した。	A H28 A H27 A	
・校長のマネジメント力強化(校長先生の知恵袋事業)	各校長のアイデアによる次年度事業のプレゼンテーションを審査し、特色のある取組に対してより多くの予算を配当した。このことで校長による積極的な事業推進がなされている。	より創造的で教育的価値の高い事業を評価し、学力の向上、体験活動の充実、さらに特色ある学校づくりを進めていく。	A H28 A H27 A	
・早期からの教育相談等による就学支援の充実	子育て支援課との協働により、早期支援コーディネーターを配置し、市長部局の関係各課、特別支援学校、医療機関そして幼稚園、保育園との連携を図り、4歳児の適正就学相談を行い、成果が見られた。	今後も子育て支援課と協働で早期支援事業に取り組んでいく。	A H28 A H27 A	
・学校運営協議会を核とした地域コミュニティ組織の活用による地域ぐるみでの学校づくりの推進	全小中学校に学校運営協議会が設置され、各学校の状況に応じたコミュニティ・スクールが展開されている。	地域コミュニティとの連携を強め、地域とともにある学校づくりをさらに進めていく。	A H28 A H27 A	
・「こころの相談ネット」の活用によるいじめの早期対応等の充実	嘱託指導主事が中心になって各種報告や相談等を受け、ケースに応じていじめの解消に向け取り組んでいる。 市全体での「いじめ問題等発生防止支援部会」や各学校での「いじめ防止対策委員会」を設置し、いじめ防止に取り組んでいる。	いじめはどの学校にも起こり得るものという認識を持ち、いじめの早期発見に努めるとともに、人権教育の充実を図り、児童生徒の人権意識を高めていく。	A H28 A H27 A	

基本目標④　嬉野市で安心して暮らしたい“地域”をつくる

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
自主防災訓練を実施する地域コミュニティ数	7地区	H26	3地区	3地区	4地区	7地区	実績 （市民協働推進課）
健康寿命	延伸	H23	男：79.00歳 女：84.02歳	－	男：78.89歳 女：84.14歳	男：79.52歳 女：84.22歳	H27佐賀県算出資料

（1）コミュニティ活動の促進

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
自主防災訓練を実施する地域コミュニティ数【累計】	7地区	H26	3地区	3地区 （3地区）	4地区 （1地区）	7地区 （3地区）	実績 （市民協働推進課）

具体的な施策	平成29年度の進捗状況（平成30年3月末時点）			備　考
	これまでの取組（進捗、成果、課題等）	今後の取組予定	評価	
・市内7地区の地域コミュニティの自主的・積極的な各種コミュニティ活動の支援	住民による地域課題の効率的活動に対して、交付金による支援を行った。	今後もコミュニティ活動に対して、交付金の支援を行っていく。	A H28　A H27　A	※評価欄について A：取組を実施した（実施済・実施中） B：取組を一部実施した C：方針、具体策等を検討中 D：未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・地域コミュニティの活動状況等を嬉野市ホームページや市報及びコミュニティ広報紙の地区内全戸配布などを通じての情報発信の充実	各コミュニティによる広報を定期的に行うとともに、市でも市報・ホームページで情報発信を行った。	情報発信の継続及び内容の充実を図る。	A H28　A H27　A	
・各地区地域コミュニティの自主防災活動の促進を支援	行政区単位の避難訓練を4カ所で実施。講演会なども含めるとすべてのコミュニティで活動を実施した。	行政区単位の避難訓練の実施を拡大していく。	B H28　A H27　A	
・NPOの設立・運営支援や各種CSO・ボランティアの交流や情報提供の促進	県からの情報を各団体に向けて配信した。	県などから情報があった場合は積極的に配信していく。	A H28　A H27　B	
・地域住民等による主体的な景観づくり活動の推進	多くのコミュニティで花いっぱい活動に取り組んだ。	今後も継続し、更なる拡大を図る。	B H28　A H27　A	
・地域コミュニティセンターの整備・充実	市内2カ所に地域コミュニティセンターを新設した。（久間地区、轟・大野原地区）	今後も整備充実を図るとともに、指定管理を含めた運営方法も検討していく。	A H28　A H27　―	H28からの新規

(2)地域の力で安全・安心のまちづくり

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
消防団員数	1,050人	H26	1,045人	1,045人	1,048人	1,044人	実績 (総務課調べ)
女性消防団員数	40人	H26	38人	37人	42人	36人	実績 (総務課調べ)
防災に関する地元説明会の開催【累計】	88行政区	H26	25行政区	31行政区 (6行政区)	61行政区 (30行政区)	80行政区 (19行政区)	実績 (総務課調べ)
防犯灯のLED化【累計】	1,988/3,000	H26	335/3,000	635/3,000	883/3,000	1,183/3,000	実績 (総務課調べ)

具体的な施策	平成29年度の進捗状況(平成30年3月末時点)			備　考
	これまでの取組(進捗、成果、課題等)	今後の取組予定	評価	
・消防団のPR、消防団への理解促進、消防団員優遇措置等による消防団員確保対策事業の実施	横断幕・のぼり旗に「火の用心・消防団員募集」を掲げて市街地広報パレードを実施。 消防団PRバッグ作成。	様々な広報活動によるPRと消防団員確保につながる取り組みを実施していく。	A H28 A H27 A	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・女性消防団員による広報活動への支援	毎月1回と火災予防週間の市街地広報活動や紙芝居による防火広報活動への支援を行った。	これまでの取組みを継続していく。	A H28 A H27 A	
・土砂災害防止法に基づき、住民へ危険性の認識と防災、避難に関する地元説明会の実施	地元説明会は終了したが、各地区や各コミュニティの会合や防災訓練等の場において防災に関する説明等を行い、防災意識の向上を図った。	これまでの取組みを継続していく。	A H28 A H27 A	
・土砂災害防止法対象外の地区でも、行政嘱託員を通じ危険箇所マップを用いた危険性や避難等防災についての説明会を実施	各地区から災害危険箇所を調査してもらい、防災パトロールを行い、行政嘱託員・消防団・地元住民へ説明している。	これまでの取組みを継続していく。	A H28 A H27 A	
・毎年300本程度の防犯灯等の設置など計画的なLED化の促進	平成29年度中に300本のLED化を行った。	平成35年まで毎年実施し、全ての防犯灯のLED化を行う。	A H28 A H27 A	
・建物等の地震に対する安全性の向上のための耐震改修の促進	大規模建築物(市内旅館)の耐震補強設計補助事業を実施。 防災拠点施設の耐震診断を実施。 木造住宅の耐震診断補助事業を実施。	耐震改修促進計画を更新し、市内全域の耐震計画を進めていく	A H28 A H27 A	
・自助・共助を含めた防災への意識向上のための啓蒙活動	コミュニティにおける自主防災組織の活動に対して、講習会等を実施。	全てのコミュニティで自主防災組織として活動が活発化するよう講習会や防災訓練へのサポートを行う。	A H28 A H27 ―	H28からの新規

(3)空き家対策の推進

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
特定空き家指定率【累計】	100%	H26	未調査	0%	0%	0%	実績 （総務課調べ）

具体的な施策	平成29年度の進捗状況（平成30年3月末時点）			備　考
	これまでの取組（進捗、成果、課題等）	今後の取組予定	評価	
・市内空き家の全件調査を行い、特定空き家対象物件の把握	空家等対策協議会を設置。	空家等対策協議会において、特定空家等の判断基準表及びガイドラインを作成する。	B H28　B H27　C	※評価欄について A：取組を実施した（実施済・実施中） B：取組を一部実施した C：方針、具体策等を検討中 D：未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価

(4)健康長寿のまちづくり

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
特定健康診査受診率	45.0%	H26	39.9%	40.9%	43.0%	43.8%	受診者実績（健康づくり課）
特定保健指導受診率	60.0%	H26	34.4%	48.3%	24.9%	48.3%	受診者実績（健康づくり課）
人間ドッグ事業受診者数（国保被保険者含む）	150人	H26	85人	94人	128人	102人	受診者実績（健康づくり課）
脳ドッグ事業受診者数（国保被保険者含む）	210人	H26	201人	172人	181人	164人	受診者実績（健康づくり課）
がん検診（胃がん）	15.0%	H26	12.2%	11.4%	11.7%	11.1%	受診者実績（健康づくり課）
がん検診（子宮がん）	35.0%	H26	30.7%	30.9%	34.0%	34.8%	受診者実績（健康づくり課）
がん検診（乳がん）	35.0%	H26	33.0%	33.6%	37.6%	37.9%	受診者実績（健康づくり課）
がん検診（大腸がん）	30.0%	H26	24.4%	24.3%	26.3%	25.8%	受診者実績（健康づくり課）
がん検診（肺がん）	25.0%	H26	22.3%	22.1%	24.5%	24.4%	受診者実績（健康づくり課）
がん検診（前立腺がん）	35.0%	H26	29.1%	28.4%	31.1%	32.1%	受診者実績（健康づくり課）

具体的な施策	平成29年度の進捗状況（平成30年3月末時点）			備　考
	これまでの取組（進捗、成果、課題等）	今後の取組予定	評価	
・第2次嬉野市健康総合計画（H25年度～29年度）の推進及び中間見直し	第2次嬉野市健康総合計画に基づき、事業等の実施を行っている。	本計画は健康づくりを7つの分野に分けて目標を設定しており、計画の最終目標である「健康長寿のまちづくり」に向けて取り組む。	A H28 A H27 A	※評価欄について A：取組を実施した（実施済・実施中） B：取組を一部実施した C：方針、具体策等を検討中 D：未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・地域での健康意識の向上による特定健康診査・特定保健指導実施率向上の推進	老人会や地域コニュニティー等に保健師が出向き、健康講話を実施するなどして、受診率向上の取り組みをしているが、意識改革の難しさに直面している。	引き続き、健康講話を実施して、なるべく地域へ足を運び対面形式での取り組みを実施したい。	A H28 A H27 A	
・生活習慣病やその他の疾病の早期発見・予防対策として人間ドック・脳ドック検診の実施	人間ドックと脳ドック検診は例年、予定人員を満たしている。しかし、国保人間ドッグが5年おき、健康長寿人間ドッグが生涯1回しか補助対象とならず、年数が経過して病状に変化が現れても、補助での再受診ができないといった課題もある。	引き続き、事業を実施していくが、受診者の希望する病院が偏らないような取り組み・受診希望者の早期受診勧奨を行う。	A H28 A H27 A	
・がん検診受診促進のための普及啓発と受診率の向上	受診促進と普及啓発をするため、市報や防災行政無線等を活用して取り組んでいる。しかし受診率の低下は否めない。	引き続き、受診促進と普及啓発のため、広報車での巡回やHP、行政放送を利用して受診率向上を目指す。働く世代の受診率向上のため、日曜・夜間検診を取り入れていく。	A H28 A H27 A	
・市民一人ひとりの生涯健康カルテ作成を目指した保健指導体制の充実・促進	現在は、健康管理システムを活用している。万全ではないが、ある程度は対応可能である。新システムとなれば経費も甚大なため、検討が必要である。	健康管理システムでの運用も可能ではないかと思われるため、先ずは現システムにて検討していく。	C H28 C H27 C	

(5)高齢者が元気で住み続けられるまちづくり

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
一般介護予防事業の参加者数(延べ)	11,000人	H26	4,076人(一次)	3,954人(一次)	5,282人(一次)	12,955人	実績報告(福祉課調べ)
		H26	5,494人(二次)	5,508人(二次)	5,670人(二次)		
認知症サポーター数	1,500人	H26	1,012人	1,196人	1,318人	1,479人	実績報告(福祉課調べ)

具体的な施策	平成29年度の進捗状況(平成30年3月末時点)			備　考
	これまでの取組(進捗、成果、課題等)	今後の取組予定	評価	
・期間の延長を含めた介護予防教室(運動教室・健康教室)の開催	介護予防教室の開催期間を延長し、一人ひとりが長期間教室参加ができるようにした。また、開催曜日を調整し、複数の教室に参加できるようにした。	今後も、長期間の開催を継続して、運動機能の低下の防止を図るとともに、外出の機会を増やしていく。	A H28 A H27 A	※評価欄について A:取組を実施した(実施済・実施中) B:取組を一部実施した C:方針、具体策等を検討中 D:未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・「日本版CCRC」の検討	他自治体の動きを注視している。	他自治体のモデル事業等を参考に検討していく。	D H28 D H27 D	
・地域や職場、学校など小学生から高齢者までの様々な年齢層での認知症サポーター養成講座の実施	地域コミュニティの協力を得て、学校、成人、地域等での開催ができた。	今後も引き続き、いろいろな分野での開催を検討していく。	A H28 A H27 A	
・講座の開催を通じ、生涯にわたり学ぶ気持ちの育成と生きがいづくりへの支援	若返り大学、ことぶき大学を実施して、健康で毎日の生きがいや仲間づくり、社会参加の意識向上を図った。	引き続き、左記事業を行っていく。	A H28 A H27 A	
・昔遊びやしめ縄づくりなどを通した多世代交流の推進	地域コミュニティの事業の中でしめ縄づくりや将棋等を行い、世代間の交流を図った。 コミュニティスクール事業で、高齢者が小学生へ昔遊び等を伝授し、ふれあいを図った。	今後も同様の事業を継続していく。	A H28 A H27 B	

(6)地域における身近な移動手段の確保

重要業績評価指標	目標	基準値		H27	H28	平成29年度末実績	
	平成31年KPI	年度	値	値	値	値	把握方法
公共交通利用者数	372,000人	H26	372,000人	364,506人	360,463人	355,948人	補助金実績報告 （企画政策課）

具体的な施策	平成29年度の進捗状況（平成30年3月末時点）			備　考
	これまでの取組（進捗、成果、課題等）	今後の取組予定	評価	
・ 地域と地域を結ぶための既存の路線バス、乗合タクシーの存続	バス・タクシー事業者、行政区とで既存路線の存続の必要性について確認を行った。	既存路線の現状維持及び事業者と市と地域住民等を巻き込み、乗客数の増加を目指していく。また、必要に応じ路線再編を行う。	A H28　A H27　A	※評価欄について A：取組を実施した（実施済・実施中） B：取組を一部実施した C：方針、具体策等を検討中 D：未着手または見直しが必要 下段は過年度の評価
・ 福祉バスを含めた市内の交通システムの開発・検討	吉田地区において、福祉バス運行を支援している。	市・事業者・地域住民間で既存路線も含め、今後の交通システムについて開発・検討を行う。	B H28　C H27　C	
・ バス利用者の増加を図る為、嬉野温泉バスセンターについて、市民が日常的に利用したいと感じるバスターミナル機能充実の検討	所有者である「JR九州バス」、「西肥自動車」並びに利用者である「祐徳自動車」、「温泉タクシー」と協議を行い、今後の嬉野温泉バスセンターの利活用をまとめた「嬉野市バス交通計画」を策定した。	左記所有者を含めた交通事業者との協議継続はもちろんのこと、地域公共交通活性化協議会や会議の場で協議・検討を行っていく。	C H28　C H27　C	